特定非営利活動法人

平成 17 年夏号　NO.27

http://nepai-mika.jp
mika@ssr.co.jp

ネパール・ミカの会

平成 17 年 7 月 16 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36　tel042-791-0602

平成 17 年度もよろしくお願いします。

理事長　齋藤　謹也

本年度の総会も無事終了し、平成 17 年度の事業がスタートしました。よろしくお願い致します。役員も、理事新任 2 名を加え 12 名の体制となり、より一層の充実が求められています。頑張ってまいりましょう。

しかしながら、ネパール国内の政治情勢、治安状況の悪化に伴い、首都以外への移動の安全性が危惧される現状の中、ルンビニ地区における学校建設などハード面ではしばらく様子をみなければならない事が余儀なくされています。本年 11 月予定のカトマンドゥ日本語学校創立 40 周年記念式典も、一年先に延期されました。

又、その案内文中に「今でも街で銃の引き金に指を入れた巡視中のアーミーを見かけます」とあり、状況は厳しいようです。今後、国連がマオイストと政府の間に入っての話し合いが期待されているようで、カトマンドゥに国連の事務所の設置が計画されています。

ミカの会では、ヌルブ・ラマ氏との話し合いの中で、様子を勘案しながらもタンセン市を中心とした図書・備品などの支援を再開したいと考えておりますし、カトマンドゥのパドマ・カニヤ女子校の奨学金を 8 名分、雪山童子奨学基金の支給生 12 名と合わせ、本年度より合計 20 名分援助する事としています（協力体制で）。又、カトマンドゥ盆地の大学などへの備品支援なども検討する事としています。そして、（株）リコー及び関連会社をはじめ、多くの方々のご協力を得て、国内事業を活発にしながら、本年度もいきたいと考えております。

平成 16 年度のメイン事業の (財) ひろしま・祈りの石国際教育交流財団給付のシリ・アマリ小学校の建設もほぼ完成し、植草三樹夫氏及びソロプチミスト町田 - さつき給付のシリ・マズワニ高校新設工事も情勢不安のなか約 8 割まで進行することが出来た。

苦しい時ほど手助けをしていくのが真の友人かと考え、従来にもまして、よりネパールの青少年の為に尽せる事はないかを考えて実行したいと念願しています。

ところで、現在 120 名を越える会員がおられます。私共の会では気楽に入会していただくと共に、ネパールにあたたかい心を寄せていただく方々を友として、手をたずさえて行きたいと思っております。従ってネパールへの旅を核として、実際にわが目（ミカ）で、そして身体で支援を体験していただきながら前へ進んでいきたいと考えているところです。

旅に参加できない場合でも、日本国内での支援活動（会員拡大への協力、イベント・バザーなどへの参加、援助資金、物品などの援助、励ましの言葉）に、できるだけ時間をさいていただきたくお願い申し上げます。「参加」がキーワードです。なかなか具体的活動には参加できなくとも、会員登録された方は、せめて精神的及び財政的支援をお願いしたいと考えています。会費（年間 1,000 円）だけでも納めていただければ幸いです。（現在 7 割強の納入率）

会員全員の励ましを受けて、諸活動にますますはずみがつきますよう、ご協力お願いします。

寺田町田市長のご臨席を賜り総会で挨拶をする斎藤理事長　ネパールの現状は厳しいですが十周年に向け改めて支援の充実を図ろうではありませんか。

『情勢不安下の建設支援』

事務局長　大谷　安宏

ネパールの情勢不安は通信状況の悪化、現地での移動の障害、治安の悪化等我々の支援活動事業にも多くの支障を受け、毎年実施の「教育支援の旅」も中止せざるを得なかった。

(財) ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の助成は、当初ルンビニから西に約 15Km のシリ・ジャナ・ジョティー小学校としていたが、現地の治安状況を鑑み、ルンビニ地区の中心に隣接し、比較的治安の安定下にあるシリ・アマリ小学校に変更したく、平成 16 年 5 月当財団に助成事業実施校変更申請書を提出し変更の承認を得た。

例年より遅い雨期明け後の工事は、現地の治安状況から工事は時折中断せざるを得ない状況にあり、責任者ラマ氏及び建築作業者の安全第一としたが、ラマ氏の尽力で計画より 2 カ月遅れで内外装塗装を残して完成、雨期明け後の 10 月には最終完成を見込んでいる。

(財) ひろしま・祈りの石国際教育交流財団への最終報告書は 2 カ月遅れで一部工事を残した状況での報告をせざるを得ず、後日落成・引渡し式の報告書提出を条件に特別に受理が承認された。また、現地学校関係者等の雨期に備え引渡し式前の施設利用の要望に対し使用の認可も得ることができた。

シリ・マズワニ高校の建設計画は 16 年度支援の旅でシリ・マズワニ中学校視察後に突然持ち上がった。

植草三樹夫氏よりの支援金で建設予定であったマズワニ村コミュニティーセンター建設計画は他の団体の先行等により中断となり、その後の対応について明確でなかったが、16 年度事業計画に 2 教室 1 職員室と図書館の高校新設計画を盛り込むことに決定した。5 月国際ソロプチミスト町田 - さつきより助成対象候補として取り上げられ、8 月に助成決定通知を受けた。これに合わせ植草三樹夫氏支援金、ミカの会資金で再度予算計上し、ミカの会として初の 2 階建て校舎の建設事業を決定した。従来の校舎建設支援は平屋建てであり、既存の設計図面を敷地に合わせた修正で済んでいたが、高校に見合ったデザインと 2 階建に通信状況の悪い中、ラマ氏との間で再三にわたりアイデアとレイアウトのやり取りが続いた。

治安状況は悪化が進み、時折、政府軍やマオイスト幹部による工事目的などの事情聴取などがあったが、現地の建設資材、現地作業者の雇用が評価され、他の建設現場が作業を中断し引き上げる状況のなか、当プロジェクトは大幅に作業に支障をきたすことはなかったという。2 月非常事態宣言発動後は現地入りも難しく作業の中断もあったが、現在 1 階に 2 教室 1 職員室、2 階に図書室、閲覧室、実験室のレンガ造り校舎は 80% まで仕上がっており、秋には目出度く完成の運びとなる見込だ。

小学校、中学校、そして新設の高等学校が揃いマズワニ地区の文教モデル地区として、生徒はもとより、地域の人々が施設を有意義に安心して活用できるよう、1 日も早い政情の安定と治安の回復を願わずにはいられない。

治安状況の悪化の中、ここまでプロジェクトを進めてくれたラマ氏の献身的な尽力に感謝したい。

回　想　の　山　旅

ネパール・カラパタールトレッキング　　小　林　　一

山の自然は、その地、その場所で趣を変えた美しさ、魅力で身体全体まで包んでくれる。この美しさ、魅力に感動させられる山旅が好きで、若いときから時折ではあったが、ずっと続けていた。

18 年前の 1 月、仕事仕事に明け暮れていたある日、○○会社で“あなたの技術”を欲しがっていると言われて会社の退職を宣告されたとき、残っていた有給休暇を利用したネパールのカラパタールトレッキングの話が舞い込んできた。
これがネパールへの第一歩であった。
このときは、高山病がひどくなり、ゴラクシェプまでしか登れなかった悔しさがずっと残ってしまったが、山の美しさ、そしてその自然の中で育む人々の心に惹かれてネパール (今では、インド、パキスタンにまで広がっている) の虜になってしまっている。

インド (北部)、パキスタン (北部) も同じヒマラヤ山群に属しており、自然も似ているためか、そこに住む人々は表情こそ違っているが、何か共通した親しみを感じる。
自然環境は、その地の人間性をも作り上げてしまうのかと信じてやまない。この地の山と住んでいる人々にすっかりはまってしまった状況だから、この地への山旅は 10 回を越え、各地方、地方に亘っている。

一昨年の 4 月には、ネパールミカの会のラマさんのガイドで、再度カラパタールトレッキングの機会を得て、今度はどうしてでも登ろうと心に決めての参加だった。そのトレッキング手記の中から一部を書き写す。
＜ 4 月 6 日＞　関西空港からロイヤルネパール航空に搭乗し、19 時カトマンズ空港に到着し、ラマさんの出迎えを受ける。
あいにく、今日はノーワークデー、クタシーもなく鶏を運搬するトラックを交渉して、荷台に荷物や全員が乗って、ホテルまで送ってもらう。

＜ 4 月 7 日＞　トレッキング手続きなどで、カトマンズに停滞する。時間つぶしに街にショッピングに出かけ、午後はナガルコットの丘へヒマラヤを展望しに行くが霞んでいて、何も見えない。

＜ 4 月 8 日＞　カトマンズ空港から、20 人乗りの小型プロペラ機でルクラに行く。
有視界飛行なので、今にもぶつかりそうな山あいや雪をつけてそびえ立つ山、段々畑やその部落の上を抜けて飛ぶのは天候次第。幸い、今日は天気も良く、フライトありで一安心する。
ルクラに到着し、シェルパ、ポーター、コック 15 人と牛 3 頭と合流し、総勢 20 人を超える大パーティーを編成し、今日のテント泊地バグディンに向かう。
ルクラの街を抜け、少し下って行くと、はや山地の様相だが桜も咲き、薄紫のサクラ草が道の両端に咲き乱れている。本当に、穏やかな里山そのものだ。
大きな谷川に架かる吊り橋を何回か渡り返しながら歩く。
正面に見える雪の山がクーンピラとラマさんが説明してくれるが、直ぐに忘れてしまうほど山また山である。
4 時間ほど歩いてバグディン (2652m) に到着したら、ポーター達が運んでくれたテントの設営も終わり、食事の用意が始まっていた。
日本人好みに用意したコックの手料理もなかなかおいしく、少しの酒に話もはずむが、明日は未体験の高度に向かう不安を胸にシュラフに潜り込む。

＜ 4 月 9 日＞　朝 6 時、「おはよう」のジュースで一日が始まる。朝食後 7 時 30 分に出発する。
今日は 800m ほど登るので、高山病が気に掛かる。
すれ違う人に「ナマステ」と声を掛けると「こんにちは」と返事が来る。日本人に見えるのだと改めて自覚する。
途中、中腹まで真っ白く雪の付いた山があったので、山の名前をラマさんに尋ねると「ない」の返事。6000 m級の山は 1400 もあると聞いて、名前のないのも納得できた。
モンジョのロッジの庭で昼食をとり、吊り橋を渡り返し、樹林帯を抜けると今日の宿泊地ナムチェバザール (3446m) に到着した。
ここは、シェルパ族の中心的な村だそうで、馬蹄形の山腹にホテル、銀行、みやげの店などが 100 軒ほどところ狭しと立ち並んでおり、生活用品は毎週土曜日に開かれるバザーでまかなわれているとのことだ。
そろそろ高山病の症状が出るのではと、心配しながら早めにテントの中へ入る。夜中、外に出てみると、満天の星に満月も、月明かりで本も読めそうだ。

＜ 4 月 10 日＞　朝、テントには霜が付き、周りにある畑も真っ白になっている。夜は相当冷えるのだろうが、昼間は 20℃にもなるので半袖でもどうということもない。
つまり寒暖の差が大きいということで、体調維持にも大変気を使う。
今日は高度順応の日、朝ゆっくりと出発して、シャンボチェの丘のビューホテルへ行き、コーヒータイムと昼寝をした後、少し下ったクゥンジュまで、ゆっくりと進む。

ビューホテルからの展望左奥にエベレスト、ヌプツエ、ローツエ、右にアマダブラム

クゥンジュは、始めてエベレスト登頂に成功したヒラリーがネパールに最初に学校建設をして、教育も盛んになった村。道理か村の景観も非常に明るく、立派に見え、発展して落ち着いた雰囲気のある村のような気がした。
この村のロッジの庭にテントを設営し、ゆっくりと一泊をした。

＜ 4 月 11 日＞　今日は、ここから 500m ほど下り、700m ほど登る行程で、いよいよ高山病の症状が少しずつ出はじめる高度となる。
朝 8 時に出発し、一番下ったところにあるプンキに 9 時 50 分到着し、ここから先では昼食できる場所がないので、ここでゆっくりと昼食にする。
昼食後 12 時少し前にタンポチェへ向かって出発。今度は高度差 700m の急な登りとなる。高山病にかからないためには、呼吸を乱さないようにと言われるがいつの間にか呼吸が乱れている。
登り道は樹林 (多くは、シャクナゲの木) に閉ざされていて、周囲の山の様子は分からない。シャクナゲはまだ 5 分咲程度、帰りには満開になるのではと期待を膨らませながら眺めていた。
14 時過ぎにタンポチェへ到着した。ここからは、目的のエベレストが望め、近くにあるアマダブラムが寺院の背景になってネパールの情景を醸し出していた。
心配した高山病にも全員平気の様で、一安心して夕食後テントに入る。

＜4月12日＞　今日は200mほど下り、ゆったりと700mほど登るディンポチェまでの長い一日であるが、いつものように8時出発する。
途中、オルショのロッジの庭で昼食をとる。このロッジの女将(子供のように見えるが子供を抱いて母乳を上げている)を見て、年を尋ねると、26才という。シェルパ族の娘は、丸く目を輝かせた童顔が素晴らしい。
持っていたフウセンで子供と遊んで楽しんだが、こんな遊びを勝手にやらせて、何か役にたつのかなぁーと心配になった。
　この道を歩いている間中は、いつも右横上から素晴らしい雄姿のアマダブラムが我々を見下ろしている。あんな氷の山に誰が、一週間も掛けながら、どんな風に登るのかを考えたくなるようなコワゴワとした氷の壁が突き立っている。
　ディンポチェへ15時過ぎには到着した。ここからのアマダブラムはタンポチェから見るのと違い、裏側を覗くことになり、7000mもの山が我々に襲いかかるような姿で聳え立ち、ますます迫力が増している。

デンポチェからのアマダブラム

＜4月13日＞　今日は、ここで停滞し、高度順応するため、近くの山(4800m)に登る。これを経験しておけば、明日のロブチェ(4800m)までは、高山病になる心配は少ない。

＜4月14日＞　昨夜から小雪が舞っていた。夜中何回か、シェルパがテントの雪をおとしてくれた。朝起きたら、一面真っ白くなっていたが、歩くのには心配ない。8時過ぎに出発する。はや、4000mを越えているので、高山病にならないよう、なるべくゆったりと呼吸を乱さないように、ゆっくりゆっくりと歩く。
周囲の山の斜面は、夏、放牧に使用されるので、殆ど草もなく裸地状態で、樹木など一本もなく、ところどころに岩石が露出している。
少し登ると背後にローツェが望めるので、眺めながら休憩、そして、また少し登ると今度はロブチェが見えるので、また休憩となる。高山病対策上は、この方が良いが、なかなか先へ進まないのも困る。でも、時間的にはこれでも夕方までには到着できるので、このペースで先へ進む。

　11時少し前に、トウクラへ到着し昼食となる。ここは氷河の末端にできるモーレン(氷河に落ちた岩石が次第に下に流されて堆積した丘状のもの)の下部にあり、午後はこれを約300m登らなければならない。
　小休止、また小休止と休み休み登り、ようやくこのモーレンを登り切ったら、ほどなくロブチェに到着できたが、いよいよ高山病が次第に酷くなってきたようだ。
夕食を少し食べて、早めにおやすみとなる。

＜4月15日＞　今日は目標のカラパタールまでを日帰りする行程である。朝5時にモーニングティーと洗面器のお湯で顔を洗い、出発する。
コックはゴラクシェプで朝食を作ると言って、我々を追い越して行く。
さすがラマさんは元気そのものだが、われわれ5人は誰一人として声も出ていない。ただ、しずかにしずかに歩くのみであった。
　8時ゴラクシェプで朝食をとり、カラパタールの山頂を目指す。露出した岩肌の急な登りを息も絶え絶えにしながら登る。12時05分、山頂に到着した。
　いつの間にか、全員が抱き合ったり、お互いに握手したり、涙、涙。５５４５m万歳！である。
　エベレストを間近に対面することを夢見て1週間歩き通してきて、いま実現したその瞬間、エベレストは尚更に大きく見えた。
　イエローバンドもかすかに見え、右裾にある氷滝も急な角度で流れ落ちている。その右手前には、大きくヌプツェが立ちはだかっている。

　ナムチェバザールのビューホテルから見たエベレストは小さく頭だけのものだったが、ここのエベレストは、まさしくエベレストのビューポイントである。
山頂にいたイスラエルの方から、温かくて甘いウイスキー入りの紅茶を頂き、山頂でフラフラになっている姿の記念写真を撮った。

カラパタール山頂からのエベレスト、ヌプツエ（右手前）

この大変に苦しいトレッキングに堪え忍んで、全員が登頂できたのは、ラマさんをはじめとした現地スタッフの細かい配慮、献身的な努力があったからこそと思い、ラマさんに感謝、感謝の気持を抱きながら、登ってきた登山道を下った。

ラマさんと行く温泉と愛・地球博　平成 17 年 5 月 19 ～ 20 日

副理事長 加藤　誠一

5 月 19 日朝 8 時定刻に町田を出発。総勢 26 名ミカの会、
ソロプチミスト町田ーさつき、ネパソンなどの合同ツアー。
主人公は勿論ラマさん。ベンツのトイレ付きサロンカーに気分はルンルン。中央高速に入ったあたりからおやつや飲み物に手がいくようになり、ガイド無しの無謀なツアーも参加者の知性あふれるガイドぶりと協力で完全にクリア。
車窓から見える山や街並みを見ながら、山登りや戦時中の疎開先の話を興味深く聞くことが出来ました
晴天の中南アルプス、八ヶ岳の勇姿を見て思わずネパールの山々を思い出します。政情不安の続くネパールの国民の不安は深く長く続くのでしょうか。
定刻に飯田に到着、昼食そして水引記念館を見学する。買い物好きな女性陣は下車の度にお土産やらおやつがどんどん増えている。私は水引記念館で男子の命名紙を購入（数日後予想していた男子が無事誕生しました）。

初日のメインイベントは天竜ライン下り。
「投網の技と波しぶき。天竜川の絶景を下る爽快な船旅」とうたい文句がパンフレットにある。
それでは乗船。26 名若干緊張気味。
あっけないほど静かに出発、船頭さんと案内譲が同乗。
案内譲の唄が渓谷に吸い込まれていく。突然船頭さんが網を投げる。小魚が 1 匹はねている。いきなり魚を空に投げるとトンビが 2 羽魚を食べに急降下。あれ～、のんびりしていた人はなんだか分からず、キョトンとしている。
豪快な水しぶきは？？　さざ波程度かな。
なんと川くだりの途中に停泊中の小舟で飲み物の販売開始。船頭さんが突然飲み物の売り子に変身。一同商売熱心さに唖然。約 40 分の船旅でした。結局水をかぶることはありませんでした。まあ、うたい文句が嘘かほんとか経験してみて下さい。

定時に昼神温泉ユルイの湯「恵山」に到着。
まあまあ立派なホテルだったので幹事一同胸をなでおろしました。温泉にゆっくりつかり、ピンクのかわいいベスト？を着て宴会場に集合。ラマさんのユカタは良く似合います。昨年の箱根でも見ました。　宴会が始まると一日バスの中で過ごした為か初対面の皆さんも楽しそうに飲んで、食べていただきました。自然とカラオケ大会に。斎藤理事長、高原顧問の歌声も初めて拝聴しました。テレ屋さんのラマさんは来年は必ず歌うと約束してくれました。そして夜はふけていきます。おやすみ！

本来寝坊なので当然今回も最後に目をさます。
？？様子がおかしい。救急車？？ T さんが？？・・・・・？？
サイレンが聞こえる。今村さんが同乗するらしい。T さんどうも昨晩から具合が良くなく朝迄我慢してしまったらしい。
でも、でも、今日は万博会場に行かなきゃ。。。。。。
一瞬パニックにおそわれる。落ち着いてと自分に言い聞かせる。
8 時本来の出発時間直前に病院にいる今村さんから電話が入る。
「家族に緊急連絡を入れて」「すぐに病院に来るように」緊張がはしる。一人の付き添いでは大変だ。青沼さんが病院に行ってくれると言う。よし、それじゃあベンツバスで行っちゃえ！！
今村さんも食事をしないといけない。食事しないと血糖値がやばい。バスでコンビニに寄っちゃえ！！ナビで病院をさがす。
地元の人に道を聞く。なまりでなんだか分からん。
今村、青沼さんには申し訳ないが 23 名は万博会場に行くことにする。後ろ髪を引かれる思いだが見学をすることも大事。
10 時ネパール館を全員で訪れる。ロシャン館長の出迎えを受ける。忙しそうである。

到着して 10 分たたない頃病院の今村さんより電話がある。
「容態が悪化している」との話で、斎藤理事長、大谷事務局長は急遽飯田の病院に駆けつけることになりました。ミカの会の男性は私と山下さんとラマさんの 3 人になってしまいましたが、せっかくの万博です。皆さんにはゆっくり見ていただきたいとあやふやな話で説明もせず大変申し訳ありませんでした。

さて会場はグループに分かれて見学しましたので詳細の報告は出来ません。個人的な印象では相変わらず高くて粗末な内容の食事、混雑しているトイレと定番となっている懸案は解決されているとは言えない状況です。
大阪万博も体験しましたが、先進国の仲間入りを果たした日本で立候補迄して開催するのはいかがなものかと思いました。
オリンピックも同じと思いますが先進国は謙虚に立候補する国があれば譲り、開催できる国がなければ開催を受ける。
そのようなスタンスがこれからは必要ではないでしょうか。
日本で今万博を開催する意義ってあるんでしょうか？
あまり並ばないですむパビリオンを数カ所見学しました。民芸店に毛の生えた程度の内容のパビリオン。結構力の入っているパビリオンと様々にお国柄を表していました。
ちなみにネパールの寺院は素晴らしいだけにゆっくり説明が聞けるような配慮が欲しい。

午後３時今村さんから理事長到着、奥様が間もなく到着の連絡が入る。容態は危機的状況から脱出し、安静状態との事。
帰路は予定では東名高速経由で東名横浜へ向かう事になっている。浜名湖でうなぎを食べるという個人的予定にもなっている。
う～ん。飯田の病院の４人はどうやって町田に帰るのかな？
中央線に出て新宿に？？？
え～い。運転手さんは駐車場で相談できないけど決めちゃおっと。！！飯田の病院にバスで戻るぞ！！
運転手さんは夕飯ごちそうしてごまかそう。山下さんも大丈夫と応援してくれる。定刻４時運転手さんの了解を得て会場から中央高速をいざ飯田へ。

山を越したＴさんの容態。奥様も病院に到着され私たちミカの会の臨時救急班もとりあえず一安心。
心身ともに疲れたと思う４名を無事バスに収容し、帰路につく。
適切な病院選び、迅速な連絡、落ち着いて見守って下さった同行の皆様のすばらしさを改めて認識させられたまさに緊張の一日でした。

Ｔさんの処置は病院と奥様におまかせし、バスの中は大役を果たした皆さんで多いに盛り上がり、あっという間に町田着となりました。いたらぬ幹事でしたが、ご協力ありがとうございました。次回は旅は救急車のサイレンを聞かない旅を切望します。

PS.T さんのその後ですが、奇跡的な回復をみせ、すでに町田の自宅に戻られ通院をされていると聞いております。
一日も早くお会いできる事を楽しみにしています。
早く空白の 20 分の話を直接聞きたいな。ねえ、皆さん。

ウォーキングの記 ⇒ 天空の舞経由編

土田　嘉武

私は体調維持と暇つぶしの一環としてのウォ‐キングを行っています。歩くエリアは我が家を中心にほぼ 360 度の範囲で１時間～２時間位歩くように心懸けています。主なウォ‐キングコースは境川や薬師池、恩田川、芹が谷公園、こもれびの森などです。今回玉川学園コースを約３時間、歩いたのでコースの概略と感想等を紹介します。特に今回はコース途中にある『レストラン天空の舞』に立ち寄りネパールの料理とお酒について話を聞き、遅い朝食として、ネパールの料理を味わうことを狙いとしました。
このコースは森野の我が家を出てから市民病院の横を通り、市営球場では一息する意味でよく試合を見ます。その後、菅原神社の境内を下って、恩田川を渡りました。バス通りを横切って本町田と玉川学園３丁目の急な坂を上る頃には汗が出始めます。玉川学園地区は坂道が多くアップダウンの連続でウォ‐キングに向いている地形です。学園３丁目から学園２丁目の当りで町田第５小学校と中央幼稚園（子供達が大きな声で騒いでいるのを見るのも結構楽しいものです）の間を通り左折して尾根道の桜並木を６～７分ほど歩くと小田急線の玉川学園駅が右下に見えてきて右に在る玉学文化センタ‐前の階段を降り、玉川学園前の駅の踏切を渡り 10：15 にレストラン『天空の舞』に着きました。岡本さんに会って開店は 11：30 と言うことを聞いたのでミカの会の話を少しました。一回りして 11：15 から少しネパールの料理の話を聞きながら食事を注文することにしました。
（私のウォ‐キングは大通りを避けて裏通り歩く様にしています。道端の草花や綺麗に整備された庭等を見たり、鳥の声を聞きながらは歩くことは一つの楽しみです。この時期はアジサイとバラが見ごろのような気がします。アジサイは通り沿いに青、紫、多くまれに白の花が見られ、バラは赤の花が
ほとんどで、まれに白、オレンジの花が庭先で目に付きます。）

で、もう一度駅前に戻り玉川学園の中を歩いて農学部の前を抜け（学園の中に公道があるので規則を守れば誰で通れる）尾根道の林の中を 10 分位歩いて横浜市の緑山に出ました。このあたりは緑が多く歩いていて心が落ち着きます、特に春先は鶯の鳴き声が確実に聞こえるコースの一つです。ここからは
奈良北団地が続き団地の裏道を通って成瀬台４丁目から玉川学園３丁目に出て昭和薬科大学の角で林の中に入り坂道を登りました。この坂道の周りはどくだみの群落地で地元の人が薬草にするそうで沢山のどくだみを刈っていました。一年中煎じて飲んでいて健康に良いと言っていました。頂上に着くと旧ＩＢＭのグランド跡に建設されている、今、話題の超巨大マンションの建設現場に突き当たりました。部屋数が５８８室と言うことで大きな長方形の建物を創造していましたが上から見るとハーケンクロスの形状をし空間を広く取った新しいタイプの建物でした。そのまま尾根道から住宅街の坂道を下ると小田急線に突当り 11：15 頃『天空の舞』の前に出ました。食事の前に会報用原稿作成の参考の為にネパール料理とお酒について岡本ご夫妻に教えていただきました。（私はネパールに行った事がないのでネパールの料理やお酒についてほとんど知識がありません）
一般的な料理はバート⇒ご飯、ダル⇒豆をスープ状に煮たもの、タルカリ⇒おかずの構成だそうです。バードの食材は種類が多く小麦、そばがき、トーモロコシ、ひえなどがあるようです。
ダルは豆類が多く、調味料の種類と、どろどろ感によってバライテーが豊富なようです。タルカリはおかずのことで煮物や漬物（アチャール）などがあるそうです。高級料理は一般料理のバート＋ダル＋タルカリにシシカバブ等の肉料理と煮魚等が付くことだそうです。（次頁に続く）

国際ソロプチミスト町田 - さつき 10 周年記念式典

平成 17 年 5 月 8 日（日） ホテル　ザ・エルシー

ネパールの教育事情を記念講演で語るラマ氏

斎藤理事長以下 7 名が出席お祝いを申し上げました。
シリ・マズワニ高校建設の為に多額に寄付を頂きました。
ほぼ落成を迎える状況ですが、ネパール国内政情不安の為開校式は遅れています。
一日も早く支援がスムースに行えるよう希望します。当会とさつきの友好関係はネパールの子供達の大きな希望となる事と確信します。

記念式典当日ホテル内にミカの会民芸品売り場を特設させて頂き多額の売り上げを得る事が出来ました。
ラマ氏の講演をサポートする為にネパールを含めたアジアの識字率と女性の地位向上の関係、乳児の死亡率などを資料として用意しました。これらの資料、講演、プセゼンは参加の皆様に大きな問題提起をする事が出来ました。

ミカの会のプレゼンテーションをベースに出席の来賓、ソロプチミスト会員にネパールの学校建設を紹介！

（前頁より）

又、料理のランク付けは食材の良し悪しの違いによるところが大きいそうです。お酒は蒸留酒、醸造酒の２種類有り蒸留酒は日本の焼酎に似たラクシと言うのがあるそうです、原料はお米、ひえ、果物、花、サトウキビなどだそうです、口当たりが良く飲みやすそうです。
醸造酒はジャードで日本のどぶろくに似ているようです、原料はサトウキビ、とうもろこしだそうです。
お酒の名前は民族によって呼び方が違うそうですが香りや味に余り違いはないようです。
日本の地酒のような位置付けですかね。ネパールに行く機会が合ったら飲んでみたいと思いました。

11：45 頃に沢山のメニュ‐の中からネパール料理とエヴェレストビールをオーダーして豪華な朝食が始まりました。バート、ダル、タルカリが大きなお皿にまとめられている構成で、日本の味にアレンジされている為かとても美味しく食べられました。

12：15 頃お客も増えてきたので又お会いしましょうの挨拶をして店を出ました。岡本さんご夫妻には突然の訪問でご迷惑をお掛けしましたが懇切丁寧な説明を頂き有難う御座いました。

帰りは店の前の通りを小田急線に沿って学園八丁目から南大谷に南下し、恩田川に出て、一休みしました。休んでいる間にもウォ‐キングやジョギングをしている人を見かけます、又、犬を連れて散歩する人が 4 ～ 5 人通り過ぎていきました。恩田川も１０年位前と比べるとかなり水がきれいになった様な気がします。その後、川沿いのサイクリング道路を上流に向かって歩きました。この辺りは 5 月の始めごろカルガモの親子を 2 家族見かけたところですが今回は大きくなった子供連の 1 家族が見られました。

又、この通りはアジサイが多く見ごろの状態でした。本町田の養連寺まで 20 分位歩き、往時に来た同じ道を通り家に帰りました。途中市営球場で文京対神奈川大学の軟式野球試合を見ましたがレベルが高く面白い試合でした。正味 3 時間のウォ‐キングでしたが汗も相当出ましたが疲れもかなりなものでしたので家に帰ってから 2 時間位の昼寝をしました。

『望まれる治安の回復』　　松浦　陽子

平成 17 年度ネパール･ミカの会定期総会が去る 5 月 14 日（土）に市民ホール第 4 会議室で行われました。
女性の時代という事で今年は司会・議長・書記の役割を女性 3 人で担当しました。司会も議長も落ち着いていてなかなかのものだったと思います。

又、新しい試みとして今年はプロジェクターでスクリーンを使ったネパールの支援状況の説明をしましたが、口頭だけの説明より現地の学校の建設状況、校舎の完成度、周囲の環境、村人達の様子などとっても分り易くてやはり視覚に訴えることはとても良いものだなあと改めて気付かされました。

最近、あちこち学校関係機関からミカの会に講演依頼が増えて来ていることでもありますし、ますますプロジェクターの必要性が見直されるものと思われます。
今年度からの海外事業についてですが、今のネパールはマオイストの横暴な武装闘争に拠って国の治安が乱れ、山岳地帯や農村部など地方では特にバンダ（閉鎖、禁止）で行動が制限されて人々の暮らしや生活に大きな不安を与えています。

私達ネパール・ミカの会の主な支援先であるルンビニ地方は特に貧しく、1 日に 2 食食べられたら良い方だと言う位、皆痩せていて赤ん坊も片手で持ち上げられそうな栄養不足の小さな子が多いところです。それでなくともろくに仕事もなく収入も思うに任せない彼等がマオイストによる行動規制でこれからどうやって暮らして行くのかと思うと暗澹たる気持ちになります。「せめてネパールの若者達（大学生など）が真剣に国を憂い、現状を打開すべく平和の為に立ち上がってくれたらなあ・・・。」「然しそうなったらなったで又内戦状態が酷く成るかもしれないし・・・。」等々、色々な複雑な思いが交錯しますがやはり今は将来ネパールを支え平和な国作りを担って行く若者を育てて行く為の教育環境の整備こそが大事な課題だと思います。

その為にもネパール教育支援を中心に活動している私達ネパール・ミカの会はこの厳しい状況の中で無理をせず比較的情勢の安定しているカトマンドウ周辺地域の学校を支援して行こうという方向で考えております。現地会員で学校建設やら図書支援等、すべての支援活動でフルに働いてくれているヌルブ・ラマ氏の安全もまず優先させなければならないこともありますので・・・。

特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 17 年度定期総会議事録

1　日時　　平成 17 年 5 月 14 日（土）　15：00 ～ 1 6：30

2　場所　　町田市森野 2 － 2 － 36　　町田市民ホール第 4 会議室

3　出席者数　32 名　　委任状 42 名　（正会員　129 名）

4　式次第
司会　　和田理事
開会の辞　　今村副理事長
理事長挨拶　　齋藤理事長
来賓挨拶　　町田市長　　寺田　　和雄氏

社団法人日本ネパール協会理事
ネパールソンギートに親しむ会代表　岡本　有子氏

議長選出　　中野理事
書記選出　　松浦理事
資料確認　　議長

閉会の辞　　加藤福理事長

5 審議事項

（1）第 1 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 16 年度事業報告の件
（2）第 2 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 16 年度決算報告の件
（3）第 3 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 17 年度事業計画案の件
（4）第 4 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 17 年度収支予算案の件
（5）第 5 号議案　定款改定の件
（6）第 6 号議案　役員改選の件
（7）第 7 号議案　その他

6　議事の経過の概要並びに決議の結果
互選により中野理事を議長に松浦理事を書記に選任し、続いて上記 7 議案の審議を行った。
（1）第 1 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 16 年度事業報告の件
（2）第 2 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 16 年度収支予算案の件
（1）の件で大谷事務局長が海外事業、国内事業の実績を報告した後（2）の件について青沼会計担当が会計決算の報告を行い、沼野、山内会計監査によりすべて適正に会計処理されている旨の監査報告があった。
上記 2 件について一括承認された。

（3）第 3 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 17 年度事業計画案の件
（4）第 4 号議案　特定非営利活動法人ネパール・ミカの会
平成 17 年度収支予算案の件
3）の件で大谷事務局長より今年度の活動方針、国内事業並びに海外事業実施項目案の説明があり、続いて青沼会計担当から（4）の件で今年度の収支予算案の説明があった。

上記 2 件について一括承認された。

（5）第 5 号議案　定款改定の件
大谷事務局長より　　定款第 3 章役員
第 13 条　この法人に役員を置く
（1）理事 4 人以上 10 人以内　の項を理事 4 人以上 12 人以内に改定したい旨説明があり承認された。

（6）第 6 号議案　役員改選の件
齋藤理事長より平成 17 年度・18 年度の役員改選の件で
理事長 1 名　副理事長 3 名　理事 6 名　監事 2 名は平成 15 年度・16 年度役員が留任し、齋藤　孝氏とヌルブ・ラマ氏を新理事に高原　坦氏を顧問として任命したいとの説明があり原案どうり承認された。
（7）第 7 号議案　その他
齋藤理事長より提案：ミカの会は入り易いと言う事で会費 1,000 円としてるが切手代程度の額なので NPO 法人として 2 年を経た今せめて会員全員が会費を払ってもらいたい。毎年未納者が多いのは残念です。

青沼会計担当：毎年、3 年も未納者は切ってしまうなど見直しをしたり等の努力はしているのだが・・・。
土田会員：先程、会員の活動参加を促したいと言う事だったが課題があれば教えてもらいたい。イベント等何か具体策を示して欲しい。
大谷事務局長:皆で考えて欲しい。是非､参加協力して欲しい。もう少し検討させて欲しい。
議長：この席で何か良い提案があれば意見を出して欲しい。
土田会員：同じメンバーで固定しない様検討してもらいたい。

以上のような意見や質疑、応答がありました。

7　議事録署名人の選任に関する事項
議長より本日の議事録をまとめるにあたり、議事録署名人 2 名を選任することが諮られ、互選により加藤雅子氏、濱崎ヤスエ氏の 2 名を選任した。

以上により本日の議事を終了し、加藤副理事長が議事が無事滞りなく行われたことを告げて閉会を宣言した。

総会終了後ネパールの状況を語るラマさん。
ルンビニ、タンセン地域の安全に関してはいままでに無い程慎重な言葉で困難が多いと説明していた。
ネパールの春はもう少し先になりそうです。

NPO ネパール・ミカの会　定期総会に初めて議長になって

中野　千恵子

平成１７年５月１４日　町田市民ホール・第４会議室に於いて、１７年度定期総会が開催されました。
当日出席者　３２名、委任状　４２名（現在正会員　129名）来賓者は、寺田町田市長、岡本日ネ協会理事が出席され、挨拶を頂きました。

議長に私が選出され、書記は松浦さんにお願いし、式次第通りに議事が無事に滞りなく、進められました。その他で現在、会員会費の未納者問題、年間イベント活動が同じ会員が参加しているので、他の会員をどの様にしたら、参加しやすく出来るかが検討課題となった。
その後、懇親会で、ヌルブ、ラマ氏の講演や、プレゼンテーションが楽しく行われ、閉会となった。

懇親会の前で私は議長を解任され、ほっとし懇親会に参加することが出来ました。

総会前の理事会で、突然、今年の総会は司会、議長、書記は女性にと提案され、司会は和田さん、書記は松浦さん、議長は私と決まってしまいました。

理事会が始まるとき、誰かが「今日の理事会は面白いよ」私「‥」そして、総会の話。「なるほど‥こういう事だったのか」。総会で会員の前で私の様な若輩者が、出来るか一瞬悩みました。泣いてわめいたり、駄々をこねても、みっともないし、議事どうりにすれば何とかなると思い、受けることにしました。帰りの車で、今まで、出席してきた、いろいろの総会が頭の中を駆け巡ります。議事進行で、報告者を間違えないこと。議事承認を採ったら、案を消すこと。等等。まずは落ち着いて行うことが出来れば OK と思い当日を迎えました。

当日本番はあがるかと思っていたのですが、間違えはありましたが、以外と落ち着いて、進行を進めていくことが出来、良かったと思っています。回りに頼りになる人達がいたからだと感謝、感謝です。

《2005 年度夏秋スケジュール》

8/20	チャリティコンサート	薬田寺境内
9/4	栄通り商店会フェスタ	パンダ駐車場
10/ 中旬	チャリティーボウリング大会	千寿閣
10/ 中旬	ボラセンバザー	ぽっぽ町田
10/8・9	町田カーニバル	町田東急近辺
10/23	相模原国際交流フェスティバル	大野北公民館
10/29・30	横浜国際協力まつり	パシフィコ横浜
11/5・6	能開大バザー	能開大
11/6	国際ボランティア祭・夢広場	ぽっぽ町田

【編集後記】
今月号より会報が A4 サイズに変更となりました。ボリュームアップの会報いかがですか？体裁よりも重要なのは実際の事業の内容ですが。少しでもミカの会の活動を知り、活動に参加の後押しが出来れば幸いです。ネパールを含み世界は不安定でギクシャクしています。勝ち組、負け組の区別しか出来ない最近の日本もどうかしていますね。
10 周年にむかって今一度私たちの会の事考えてみませんか？ S.K

ヌルブ・ラマさん歓迎会　山内　トヨ子

５月 29 日、バンコクを経由してラマさんがミカの会総会、国際ソロプチミスト町田 - さつき 10 周年記念式典出席の為に来日いたしました。大谷、青沼，中野さんが成田空港まで出向かいに行き、午後無事に町田に到着致しました。

さっそく歓迎会を開催、一年ぶりのラマさんのスマイルに出会うことが出来ました。参加者の最長老沼野夫妻、最年小は加藤副理事長のお孫さん、総勢約 30 名の大歓迎会となりました。ご馳走のメニューは今村さんの特製ヤキソバ、大谷、加藤、山下さんのバーベキューそして会場のアシーナのカレーとナン。

トルコの水で割ると一瞬でカルピス色に変わるめずらしいお酒、エベレストと名の入ったウイスキー。
時が経つにつれお酒が入り、食べきれないほどの食事を満喫しました。

ラマさんは一人一人と握手されながら再会を喜び、ネパールの現状をお話していました。竹林に囲まれた素敵な会場でラマさんの結婚も時間の問題だけと報告されました。ネパールでの年内の結婚式も可能性大です。

出　張　授　業　和田　泰子

ネパール・ミカの会の活動が充実していくにつれて、講演依頼も多くなってきました。今は相模原市大野北中からの依頼で、総合教育の一環である国際理解の授業のお手伝いに大谷さん、青沼さんと共に取り組んでいます。図書室やインターネットで得られる知識だけでなく、生きたネパールを５感を通して理解してもらい、理解を深めた上で、生徒自身が自分たちに何が出来るかを考えるヒントを提供できればと思います。前期授業２回が終わり、９月からはネパールの家庭料理を皆で作ったり、実際にバザーに参加していただく予定です。最後の授業ではネパールの人々の自立支援につながるアイディアを生徒に発表していただきます。（詳しい報告は後期授業終了後にいたします）

《夢展に会員８名が出展》

第８回夢展が６月 23 日から 27 日までの会期で、町田市民ホール４Ｆギャラリーで開かれ、ネパール・ミカの会会員８名が出展しました。

出展者総数が 67 名と年々増加することは非常に嬉しい事ですが、それにも増して作品のレベルがあがっていることと、特に障害者の作品に対する入場者の評価は大変なものがありました。又、会場が定着したこともあり、入場者は約 400 人と増加しており、中には来年の出品希望者も居たりで非常に楽しみな夢展になってきました。
第９回の日程は町田市民ホール４Ｆギャラリー６月 27 日 (火) ～７月２日 (日) です。　来年も楽しみにしております。